

コンソーシアム京都 インターンシップ
株式会社ディアライブ
プロジェクト報告書
同志社大学 石井翔輝
同志社女子大学 谷川野乃香
2017年11月16日

インターンシップを終えて

株式会社ディアライブさんでのインターンは、非常に充実したものでした。まず結果的に私たちは、主に2種類の記事と、フェイスブックで、京都の魅力を発信していきました。

まず一つ目の記事は **Study Kyoto** というサイトの記事を書きました。**Study Kyoto** は留学生に向けて、京都での過ごし方や、京都のおすすめを紹介する記事で、1人は日本の学生が留学生へおすすめする食べ物や、施設などを紹介する記事を書きました。もう1人は日本の病院の行き方をテーマに記事を書きました。一つ目の記事では、何を留学生へ紹介するかを決めるために、グーグルフォームというアンケート機能を使い、私たちの友達へ **LINE** や **ツイッター** などの **SNS** を使い、投票数をランキングにしました。様々な分野のアンケートし、例えば「好きな食べ物はなんですか?」というものや、「好きな映画はなんですか?」という質問を友達などに答えてもらいました。意外だと思ったアンケート結果のものもあり、私たち自身も非常に楽しむことができました。そして、そのアンケート結果を元に、各質問の1位、2位、3位に人気があったものについて記事にしました。それぞれの食べ物や、お店の詳細なども記載し、「分かりやすく」ということを意識しました。その点で、いつものレポートなどと違って、言葉選びに苦労しました。また、質問の中の一つで、「体験したい、もう一度体験したいと思う日本文化体験はなんですか?」という質問をしました。その回答に陶芸体験という意見が非常に多かったので、陶芸体験について記事にしようと思いましたが、より詳細に、面白い記事にするために取材は行きました。森陶芸館という陶芸体験をはじめとして、陶芸品や日本文化品を販売されているお店へ取材し、陶芸体験について伺おうと思いました。取材をするにあたって、アポイントメントを取る必要があり、そのアポイントメントや、依頼書も作成し、取材も許可をいただきました。取材では陶芸体験についてだけではなく、陶磁器を焼いている施設や、陶磁器についてなど、様々な情報を教えていただき、またそれをボイスレコーダーでも録音し、記事にしていきました。しかしながら、質問は考えてきてはいたのですが、時々、会話が續かなく、静かになることもあったので、質問をもう少し考え、スムーズにできたらより良い取材になったなというのが正直な感想です。取材を終え、記事を完成させた後は、英語に翻訳していきました。私たち2人とも、どういう表現が良いのか、この時はどう言うのが慣用的な表現なのか、この単語でいいのかなどなど、様々なことに悩みつつ翻訳を進めていきました。自分で書き上げた後は、ネイティブの社員の方にチェックと訂正もしていただき、英語の表現により磨きがかかったと思います。

Study Kyoto の二つ目の記事である日本の病院の行き方も同じように、取材はしませんでした。英語対応できる病院、中国語対応できる病院、韓国語対応できる病院など、京都市内の病院についてたくさん調べ、記事にしていきました。病院へ入ってからの診察の流れや薬局のことなども詳細に書いていきました。他にも、headache(頭痛) は日本語で何というのか、throb(ズキンズキン)などの擬態語はと言えばいいのかなども記事にし、留学生が不安なく病院へ行けるようにアドバイスをするような記事にしました。そしてそれも英訳にし、訂正してもらうことで、より良い記事になり、かつ英語の勉強もすることができたと思います。

二つ目は traveler's voice of Kyoto というディアライブさんの作成しているサイトに、留学生向けではなく、京都へ来る観光客へ向けて京都の魅力を発信するという記事を書かせていただきました。日本の旅行に関する身近な疑問や、京都に関する観光情報など、日本および京都での旅行に役立つ情報を記事にして掲載し、京都をより快適に楽しむための参考になるように、ということをテーマに書いていきました。その記事の1つは「京都の夜の楽しみ方」について書き、もう1つは「電車の乗り方」をテーマに書きました。各それぞれの記事を書き始める時、ページビューをできる限り多くしたいため、グーグルの機能を使い、どのような言葉がよく検索させているのかを入念に調べ、できる限りヒットしやすいようにキーワードを記事に入れることを意識して記事を書いていきました。例えば「京都 夜 魅力」と検索している人が多いと分かたら、記事に「京都の夜の魅力を紹介します。」というように書き、検索にヒットしやすくするという工夫をするように教えていただきました。記事の内容は、京都の魅力について書く記事では、おすすめの温泉や、サイクリングスポット、おすすめのバーなどを紹介し、外国人観光客をはじめとして日本人観光客へも役立つ情報を掲載できたかなと思います。そしてそのお店やスポットの詳細や料金なども記事に載せ、京都の夜までもしっかりと楽しんでもらえるための記事を書きました。

もう一つの電車の乗り方についての記事では、外国人と日本では改札の仕組みが違うことから、乗り方に迷う方が多いということが分かったので、切符の買い方から改札の出入りについて写真を載せて分かりやすく説明した記事にしました。また、京都からは新幹線に乗って東京へ向かう人が多いということが分かり、またその方法について検索している方も多いということが先ほどのグーグル機能を利用して分かったので、新幹線についても記事にしました。そもそも新幹線とは何か、予約の方法、料金など詳しい情報を掲載し、役立つ情報を書き上げました。そこでも検索にヒットしやすいように多くのキーワードを記事の中に取り入れて工夫をしました。そしてそれらの二つの記事は「トリップアドバイス」という自分で考えたタイトルを新しいコンテンツとしてサイト内の項目に追加させていただきました。

三つ目はフェイスブックの記事を書き、ツイッターやインスタグラムなどの SNS のような身近な写真や景色でローカルな京都を観光客に魅せたり、楽しんでもらったりしようということを書かせていただきました。これは出勤日に、1人1投稿という目標で、写真と文章を書き、投稿するというものでした。これは特に何か工夫するというのも少なく、

自由にカジュアルにすることができました。フェイスブックの更新はしばらく止まっているということだったので、私たちが更新を増加させることができ、良かったと感じています。しかし、反省点として2人ともインターンシップの後半の出勤日となると、投稿する写真のネタがなくなってきたり、投稿できなかった日何日かありました。例えばこれはローカルな視点なので、帰り道であったり、地下鉄の風景であったり、本当に身近な写真でもよかったのかなという点で反省をしました。あまりこだわりすぎず、自由な発想というのが意外とよかったりもするのかなと思いました。

今回のインターンの良かったところとしては、ディアライブさんの作成している Web サイトである **Travelers voice of Kyoto** に「トリップアドバイス」という新しいコンテンツを追加できたことかなと思います。また、その「トリップアドバイス」の Web デザインも、デザイナーの方とともに作成できたことも良かった点かなと思います。自分たちの意見が採用されたときには、やりがいを感じました。社会へ出て自分の意見を持ち、それを発信していくことが、社会で活躍できる一つの方法なのだなと思いました。さらに、今まで学んできた英語を実践的に仕事上で使えたことも大きな成長につながったと思います。それと共に英語力の高さが求められること、社会における英語の重要性をあらためて実感できました。

反省点として、積極性とコミュニケーションの不足があったかなと思います。積極性の面では、例えばこれがしたい、こういうふうにしてみたい、など自分たちの意見を言うことが少なかったかなと思いました。また、することが終わってから、次何をすればいいですか、と指示を仰ぐだけでなく、掃除や整理など考えて何かを試してみるということもできたのかなと今になって反省しています。コミュニケーションの面では、社員さんとも、インターン生同士でもコミュニケーションを取れることが少なかったかなと思います。やはりせっかくの出会いであるので、たくさん話して情報を共有したりして新しいものを発見するきっかけにできた方が良かったなと思いました。仕事だけでなく、そのような積極的に動いたり、コミュニケーションを自然とできるようになったりして、やっと一人前と言えるのかなと感じました。そのような足りない部分、必要な部分が見えた非常に生きたインターンシップだったと私たちは思いました。

今回のインターンシップでは自分たちの良かった点、反省点も見つけられ、非常に良い経験となりました。また、Web の記事を書くということは地道な努力と工夫をするという過程を踏むことによって、より良いものが作れるのだと、実際の仕事を通して感じることができました。私たちはまだ二回生で就職活動まで少し時間があるので、今回の経験を踏まえて、自分のやりたいこと、できること、向いていることをそれぞれ見極めてより良い方向へと進んでいきたいと思っています。